

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		生物学 I			学年	1
講師名			単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
生命・組織・細胞・生殖・神経系など、生体の基礎を理解し説明できるようになる。						
講 義 内 容	1	細胞				
	2	血液				
	3	循環				
	4	呼吸				
	5	栄養				
	6	消化				
	7	吸収				
	8	まとめと確認テスト				
	9	体温				
	10	骨				
	11	排泄				
	12	内分泌				
	13	内分泌				
	14	今までの復習				
	15	今までの復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		生物学Ⅱ			学年	1	
講師名				単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標							
講 義 内 容	1	ホメオスタシス、細胞内小器官					
	2	細胞内小器官					
	3	拡散、浸透、ろ過、物質輸送					
	4	血球					
	5	血球、血液凝固					
	6	各組織の分化と発生					
	7	体液					
	8	今までの復習					
評価方法							
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		心理学			学年	1
講師名			単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
心理学的な視点から人を理解し、人を心理的な面も含めて接することができるようになる。						
講義内容	1	自己紹介／心理学の歴史				
	2	心理学の歴史／血液型と心理学				
	3	知覚・記憶				
	4	欲求・感情				
	5	発達				
	6	自己～自己開示				
	7	集団行動～社会的促進・同調・服従				
	8	集団意志決定				
	9	援助行動				
	10	コミュニケーション・スキル①				
	11	コミュニケーション・スキル②／恋愛関係①				
	12	恋愛関係②				
	13	スポーツ心理学①運動と心理に関する基礎理論				
	14	スポーツ心理学②スポーツ選手の競技力向上への活用				
	15	スポーツ心理学③一般人の健康増進への活用				
評価方法						
評価基準	新GPA 新評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		医療英会話			学年	2	
講師名				単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標							
グローバル化していく社会の中で柔道整復師に必要な医療英語及び会話を学び、外国人患者の来院時にも対応できるよう							
講 義 内 容	1	自己紹介					
	2	身体の部位の名称(1)					
	3	身体の部位の名称(2)					
	4	整形関係の怪我の名称					
	5	骨格の名称					
	6	筋肉の名称					
	7	英語略語(1)					
	8	英語略語(2)					
	9	(1)むち打ち症 (2)医療英語コミュニケーション第3章 vocabulary1,2.(p19)					
	10	(1)40肩、50肩 (2)医療英語コミュニケーション第7章 speaking(p43)					
	11	(1)ぎっくり腰 (2)医療英語コミュニケーション第14章 vocabulary2(p81)					
	12	(1)捻挫 (2)医療英語コミュニケーション第13章vocabulary(p73)					
	13	医療英語コミュニケーション 第12章					
	14	(1)医療英語コミュニケーション 第5章 Listening (p31,34)					
	15	(2)まとめの問題					
評価方法							
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。					
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。					
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。					
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。					
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。					
備考							

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		栄養学			学年	1
講師名			単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
一般の方から選手まで、日常からスポーツ現場まで、多くの現場で役立てられる栄養摂取の知識と重要性を身につける。						
講 義 内 容	1	健康と栄養 五大栄養素の役割				
	2	日常生活と栄養				
	3	日常生活と栄養				
	4	栄養指導・保健指導 各疾患に対しての運動指導				
	5	食物と栄養 栄養素とその働き				
	6	食物と栄養 食物の摂取と消化・吸収				
	7	ライフステージと健康教育				
	8	運動と栄養 身体組成とエネルギー代謝、スポーツ栄養マネジメント				
	9	スポーツ選手の競技力向上と栄養 種目特定の分類と食事				
	10	スポーツ選手の競技力向上と栄養 競技力向上のための食事				
	11	スポーツ選手の競技力向上と栄養 水分補給、食事管理、栄養サポート				
	12	健康増進と栄養 健康日本21、日本人の食事摂取基準				
	13	健康増進と栄養 食事バランス				
	14	健康増進と栄養 食育について				
	15	まとめ				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		スポーツ演習			学年	1
講師名			単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
様々な視点、思考力を身に付け、外傷の治療だけでなく患者のQOLの向上など生涯学習の精神を身に付ける。						
講 義 内 容	1	障害者スポーツの意義と理念				
	2	障害者スポーツ推進の取り組み				
	3	全国障害者スポーツとパラリンピック				
	4	障害者スポーツに関する諸施策				
	5	各種障害者スポーツの離開と体験				
	6	各種障害者スポーツの離開と体験				
	7	各種障害者スポーツの離開と体験				
	8	各種障害者スポーツの離開と体験				
	9	スポーツ指導の概要				
	10	各種スポーツの理解と体験				
	11	各種スポーツの理解と体験				
	12	各種スポーツの理解と体験				
	13	各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫				
	14	各障害のスポーツ指導上の留意点と工夫				
	15	スポーツ指導における総復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		保健体育 I			学年	1
講師名			単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道の礼法、技法を身につける他に柔道の精神である、精力善用・自他共栄を学ぶことにより社会性を身に付ける。						
講 義 内 容	1	柔道着の着方、礼法				
	2	基本動作				
	3	礼法、受身				
	4	礼法、受身				
	5	礼法、受身、投げ技(体落とし)				
	6	礼法、受身、投げ技(体落とし)				
	7	礼法、受身、投げ技(支釣込足、大腰)				
	8	礼法、受身、投げ技(支釣込足、大腰)				
	9	礼法、受身、投げ技(支釣込足、大腰)				
	10	礼法、受身、投げ技(支釣込足、大腰)				
	11	礼法、受身、投げ技(背負い投げ)				
	12	礼法、受身、投げ技(背負い投げ)				
	13	礼法、受身、投げ技、抑え技				
	14	礼法、受身、投げ技、抑え技				
	15	今までの復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		保健体育Ⅱ			学年	1
講師名			単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道の礼法、技法を身につける他に柔道の精神である、精力善用・自他共栄を学ぶことにより社会性を身に付ける。						
講 義 内 容	1	礼法、受身、投げ技、型の説明				
	2	礼法、受身、投げ技、型(浮腰)				
	3	礼法、受身、投げ技、型(浮腰)				
	4	礼法、受身、投げ技、型(背負投)				
	5	礼法、受身、投げ技、型(背負投)				
	6	礼法、受身、投げ技、型(払腰)				
	7	礼法、受身、投げ技、型(払腰)				
	8	礼法、受身、投げ技、型(払腰)				
	9	礼法、受身、投げ技、型(送り足払)				
	10	礼法、受身、投げ技、型(送り足払)				
	11	礼法、受身、投げ技、型(支釣込足)				
	12	礼法、受身、投げ技、型(支釣込足)				
	13	礼法、受身、型、約束乱取				
	14	礼法、受身、型、約束乱取				
	15	今までの復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		保健体育Ⅲ			学年	2
講師名			単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道の礼法を身につけ、安全な受け身が取れる様になり、柔道の基本である型ができるようになる。						
講 義 内 容	1	ガイダンス(年間授業) 礼法、受身、投げ技、型の説明				
	2	礼法、受身、投げ技(体落とし)				
	3	礼法、受身、投げ技(支釣込足、大腰)				
	4	礼法、受身、投げ技(背負い投げ)				
	5	礼法、受身、投げ技、抑え技				
	6	礼法、受身、投げ技、型(浮腰)				
	7	礼法、受身、投げ技、型(背負投)				
	8	礼法、受身、投げ技、型(払腰)				
	9	礼法、受身、投げ技、型(送り足払)				
	10	礼法、受身、投げ技、型(支釣込足)				
	11	今までの復習				
	12	礼法、受身、型、約束乱取				
	13	礼法、受身、型、約束乱取				
	14	礼法、受身、型、約束乱取				
	15	総復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		保健体育Ⅳ			学年	2
講師名			単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道の礼法を身につけ、安全な受け身が取れる様になり、柔道の基本である型ができるようになる。						
講 義 内 容	1	基本動作・確認				
	2	基本動作・確認				
	3	基本動作・確認				
	4	基本動作・確認				
	5	受け身・投げ技・乱取り				
	6	受け身・投げ技・乱取り				
	7	受け身・投げ技・乱取り				
	8	受け身・投げ技・乱取り・柔ノ形				
	9	受け身・投げ技・乱取り・柔ノ形				
	10	受け身・投げ技・乱取り・柔ノ形				
	11	受け身・投げ技・乱取り・柔ノ形				
	12	受け身・投げ技・乱取り・柔ノ形				
	13	受け身・投げ技・柔ノ形の復習				
	14	受け身・投げ技・柔ノ形の復習				
	15	受け身・投げ技・柔ノ形の復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		解剖生理学Ⅰ		学年	1
		単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標					
神経系、感覚器の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身に付ける。					
講 義 内 容	1	神経の基本的構造			
	2	静止膜電位と活動電位、興奮の伝導と伝達			
	3	中枢神経系、脳室、脳脊髄液			
	4	大脳皮質、大脳髄質、大脳基底核の構造と機能			
	5	大脳皮質、大脳髄質、大脳基底核の構造と機能			
	6	大脳皮質、大脳髄質、大脳基底核の構造と機能			
	7	間脳と脳幹の構造と機能			
	8	間脳と脳幹の構造と機能			
	9	間脳と脳幹の構造と機能			
	10	小脳の構造と機能			
	11	神経、脳の構造の復習			
	12	伝導路			
	13	伝導路			
	14	伝導路			
	15	脳神経			
	16	脳神経			
	17	脳神経			
	18	自律神経と内臓調節、反射			
	19	自律神経と内臓調節、反射			
	20	神経系総復習			
	21	神経系総復習			
	22	感覚受容器、皮膚、味覚器、嗅覚器の構造と機能			
	23	感覚受容器、皮膚、味覚器、嗅覚器の構造と機能			
	24	視覚器構造と機能			
	25	視覚器構造と機能			
	26	嗅覚器の構造と機能			
	27	嗅覚器の構造と機能			
	28	感覚器の総復習			
	29	感覚器の総復習			
	30	定期試験の振り返り			
評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		解剖生理学Ⅱ		学年	1
		単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標					
全身循環、心肺機能の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身に付ける。					
講 義 内 容	1	脈管総論、血管の種類と構造、特徴			
	2	心臓の構造と生理学的特徴			
	3	刺激伝導系、心電図、心周期			
	4	刺激伝導系、心電図、心周期			
	5	心臓系の復習			
	6	全身の動脈			
	7	全身の動脈			
	8	全身の動脈			
	9	全身の動脈			
	10	動脈系の復習			
	11	全身の静脈			
	12	全身の静脈			
	13	全身の静脈			
	14	胎児循環、リンパ系、血圧			
	15	静脈系の復習			
	16	脈管系の復習			
	17	循環の調節（神経性、体液性、局所調節）			
	18	循環の調節（神経性、体液性、局所調節）			
	19	循環器系総復習			
	20	呼吸器の構造（鼻腔、咽頭、喉頭）			
	21	呼吸器の構造（鼻腔、咽頭、喉頭）			
	22	呼吸器の構造（気管、気管支、肺、縦隔）			
	23	呼吸器の構造（気管、気管支、肺、縦隔）			
	24	呼吸器構造の復習			
	25	呼吸筋、換気、ガス交換			
	26	呼吸筋、換気、ガス交換			
	27	酸素解離曲線			
	28	呼吸調節、異常呼吸			
	29	呼吸器系総復習			
	30	定期試験の振り返り			
評価方法					
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		解剖生理学Ⅲ		学年	1
		単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標					
泌尿器・生殖器の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身に付ける。					
講 義 内 容	1	腎臓、尿管の構造			
	2	膀胱、尿道の構造			
	3	泌尿器の構造復習			
	4	泌尿器の構造復習			
	5	泌尿器の生理学的構造と機能			
	6	クリアランス、糸球体ろ過			
	7	尿細管における再吸収、分泌			
	8	尿細管における再吸収、分泌			
	9	排尿			
	10	泌尿器の生理学的構造と機能の復習			
	11	泌尿器系総復習			
	12	泌尿器系総復習			
	13	男性生殖器の構造			
	14	男性生殖器の構造、生理学的働き			
	15	女性生殖器の構造			
	16	女性生殖器の構造			
	17	生殖器の構造の復習			
	18	生殖器の構造の復習			
	19	女性の卵巣・月経周期			
	20	女性の卵巣・月経周期			
	21	妊娠と分娩			
	22	生殖器総復習			
	23	内分泌、ホルモンの概要			
	24	視床下部、下垂体前葉のホルモン			
	25	下垂体後葉、甲状腺、上皮小体のホルモン			
	26	膵臓のホルモン			
	27	副腎のホルモン			
	28	生殖腺のホルモン			
	29	内分泌の総復習			
	30	定期試験の振り返り			
評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		解剖生理Ⅳ		学年	1
		単位数	4	コマ数	30
授業概要、到達目標					
消化管、エネルギー代謝の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身に付ける。					
講 義 内 容	1	消化器の概要、口、歯			
	2	唾液腺、舌、咽頭の構造			
	3	唾液腺、舌、咽頭の構造			
	4	食道、胃の構造			
	5	食道、胃の構造			
	6	消化管の構造の復習			
	7	小腸の構造			
	8	小腸の構造			
	9	大腸の構造			
	10	大腸の構造			
	11	消化管の構造の復習			
	12	消化管の運動と消化液			
	13	消化と吸収			
	14	消化と吸収			
	15	消化と吸収の復習			
	16	肝臓の構造と働き			
	17	肝臓の構造と働き			
	18	胆道系の構造と働き			
	19	膵臓の構造と働き、腹膜			
	20	消化管総復習			
	21	消化管総復習			
	22	栄養素とビタミン、欠乏症			
	23	電子伝達系、クエン酸回路			
	24	中間代謝			
	25	中間代謝			
	26	エネルギー代謝			
	27	エネルギー代謝			
	28	栄養・代謝の総復習			
	29	栄養・代謝の総復習			
	30	今までの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		解剖学			学年	2
		単位数	2	コマ数	15	
授業概要、到達目標						
脳、脊髄、神経全般の構造を把握し、その働きを理解する。						
講 義 内 容	1	視床・視床下部				
	2	中脳・橋・延髄・小脳				
	3	中脳・橋・延髄・小脳				
	4	感覚器・上行性伝道路				
	5	脊髄神経				
	6	脊髄神経				
	7	視覚器				
	8	聴覚器				
	9	聴覚器				
	10	顔面神経(脳神経)				
	11	脊髄神経				
	12	自律神経				
	13	内分泌				
	14	下垂体・松果体・甲状腺				
	15	試験の振り返り				
評価方法						
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		生理学 I		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
高齢者の生理学的特性と変化を一般的な生理学との違いについて学び、各組織単位で理解し年齢別の治療に役立つ知識					
講 義 内 容	1	成人の心機能、循環のしくみ			
	2	心機能、循環における高齢者の生理学的特徴と変化			
	3	成人の呼吸のしくみ			
	4	呼吸器における高齢者の生理学的特徴と変化			
	5	成人の栄養消費、代謝のしくみ			
	6	体液の酸塩基平衡			
	7	栄養、代謝における高齢者の生理学的特徴と変化			
	8	成人の内分泌のしくみと働き			
	9	内分泌における高齢者の生理学的特徴と変化			
	10	成人の神経伝達のしくみ			
	11	神経伝達における高齢者の生理学的特徴と変化			
	12	骨の生成のしくみ			
	13	骨の組織、構造における高齢者の生理学的特徴と変化			
	14	高齢者の生理学的特徴と変化のまとめ			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		生理学Ⅱ		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
競技者の生理学的特性と変化を一般的な生理学との違いについて学び、各組織単位で理解し選手の治療に役立つ知識を					
講 義 内 容	1	心機能、循環における競技者の生理学的特徴と変化			
	2	心機能、循環における競技者の生理学的特徴と変化			
	3	呼吸器における競技者の生理学的特徴と変化			
	4	呼吸器における競技者の生理学的特徴と変化			
	5	栄養、代謝における競技者の生理学的特徴と変化			
	6	栄養、代謝における競技者の生理学的特徴と変化			
	7	内分泌における競技者の生理学的特徴と変化			
	8	内分泌における競技者の生理学的特徴と変化			
	9	神経伝達における競技者の生理学的特徴と変化			
	10	神経伝達における競技者の生理学的特徴と変化			
	11	筋肉の組織、構造における競技者の生理学的特徴と変化			
	12	筋肉の組織、構造における競技者の生理学的特徴と変化			
	13	筋収縮のしくみ			
	14	競技者の生理学的特徴と変化のまとめ			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		運動学Ⅰ		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
人間の運動に関わる身体の機能と構造について学び、人体の基本的な運動機能について説明できるようになる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション、運動学とは、運動の表し方（基本姿勢、運動面と軸、関節運動）			
	2	身体運動と力学（身体運動に関する物理的法則、関節構造とてこ）			
	3	運動器の構造と機能（骨・関節の基本構造と機能）			
	4	運動器の構造と機能（骨格筋の種類と構造、筋収縮の種類と仕組み、運動単位）			
	5	神経の構造と機能（神経細胞の基本構造と機能、中枢神経と末梢神経）			
	6	運動と知覚（感覚の種類と運動感覚、固有受容器の機能）			
	7	運動と神経（反射とは、連合運動と共同運動、随意運動の発現と調節）			
	8	四肢の運動（上肢の運動学：上肢帯、肩関節、肘関節、手関節）			
	9	四肢の運動（上肢の運動学：上肢帯、肩関節、肘関節、手関節）			
	10	四肢の運動（上肢の運動学：上肢帯、肩関節、肘関節、手関節）			
	11	四肢の運動（上肢の運動学：上肢帯、肩関節、肘関節、手関節）			
	12	四肢の運動（下肢の運動学：股関節、膝関節、足関節、足部）			
	13	四肢の運動（下肢の運動学：股関節、膝関節、足関節、足部）			
	14	四肢の運動（下肢の運動学：股関節、膝関節、足関節、足部）			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		運動学Ⅱ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標					
人間の運動に関わる身体の機能と構造について学び、人体の基本的な運動機能について説明できるようになる。					
講義内容	1	体幹の運動(体幹と脊柱の運動学:脊柱の構造、頸椎、胸椎／胸郭、腰仙椎と骨盤)			
	2	体幹の運動(体幹と脊柱の運動学:脊柱の構造、頸椎、胸椎／胸郭、腰仙椎と骨盤)			
	3	姿勢とは、重心と力学的安定性、立位姿勢制御			
	4	歩行とは、歩行周期、正常歩行の運動学的／運動力学的特性			
	5	歩行時の筋活動、正常歩行の運動生理学的特性、異常歩行			
	6	運動発達の基本、乳幼児期の運動発達、反射運動			
	7	運動学習の基本概念、運動学習の成果を左右する要因			
	8	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		病理学Ⅰ		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
疾病の原因・各種の疾患を学び、様々な内科的疾患について説明できるようになる。					
講 義 内 容	1	病理学概論と疾病の一般			
	2	萎縮と変性			
	3	代謝障害と疾病(尿酸代謝異常、カルシウム代謝異常、色素代謝異常、鉄代謝異常、黄疸、糖尿病)			
	4	老化、壊死			
	5	充血、うっ血、虚血、出血			
	6	血栓症、塞栓症、梗塞			
	7	リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症			
	8	進行性病変(肥大、過形成、再生、化生)			
	9	創傷治癒、組織内異物の処理			
	10	移植、脳死判定			
	11	炎症			
	12	炎症			
	13	免疫異常、アレルギー			
	14	免疫異常、アレルギー			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		病理学Ⅱ		学年	2
		単位数	1	コマ数	8
授業概要、到達目標					
疾病の原因・各種の疾患を学び、様々な内科的疾患について説明できるようになる。					
講 義 内 容	1	腫瘍			
	2	腫瘍			
	3	先天性異常(遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因・種類)			
	4	先天性異常(遺伝子異常、染色体異常、奇形の原因・種類)			
	5	内因			
	6	内因			
	7	復習			
	8	今までの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		整形外科 I		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
整形外科における疾患別各論、症例等を学び、様々な整形外科的疾患について説明できるようになる。					
講 義 内 容	1	整形外科について			
	2	運動器について			
	3	整形外科診察法・検査法			
	4	整形外科診察法・検査法			
	5	整形外科治療法			
	6	骨・関節損傷			
	7	スポーツ整形・リハビリテーション			
	8	スポーツ整形・リハビリテーション			
	9	骨・軟部腫瘍			
	10	偽関節・骨系統疾患			
	11	体幹の疾患			
	12	上腕骨・肩胛骨・肘・前腕・手			
	13	骨盤・大腿骨・膝			
	14	足関節・足趾疾患			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		リハビリ医学Ⅰ			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
授業概要、到達目標						
リハビリテーション医学の基本的な知識・評価法・診断等について学び、様々な疾患に対して対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	オリエンテーション・リハビリテーション医学総論				
	2	リハビリテーションの概念と歴史				
	3	リハビリテーションと医学的リハビリテーション				
	4	リハビリテーション医学の基礎医学				
	5	リハビリテーション医学の基礎医学				
	6	機能解剖 下肢・体幹				
	7	機能解剖 頸部・顎関節				
	8	今までの復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		リハビリ医学Ⅱ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
リハビリテーション医学の基本的な知識・評価法・診断等について学び、様々な疾患に対して対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	障害学・治療学				
	2	評価と診断				
	3	評価と形態計測				
	4	ROM-T・MMT				
	5	運動麻痺について				
	6	運動器リハ・骨折後リハ				
	7	歩行のバイオメカニクス				
	8	疼痛の評価とアプローチ				
	9	協調性障害について				
	10	理学療法・運動療法				
	11	脊髄損傷のリハビリテーション				
	12	関節リウマチのリハビリテーション				
	13	物理療法について				
	14	心疾患・呼吸器疾患のリハビリテーション				
	15	今までの復習				
評価方法						
評価基準	新 （G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		一般臨床医学Ⅰ		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
各種疾患の視診、問診、打診、触診や症状についての知識を学び、疾患に対する適切な判断ができるようになる。					
講 義 内 容	1	視診(総論)			
	2	視診(総論)			
	3	打診、聴診(総論)			
	4	触診、生命徴候(総論)			
	5	感覚検査、反射検査(総論)			
	6	代表的な臨床症状、検査法(総論)			
	7	呼吸器疾患(各論)			
	8	呼吸器疾患(各論)			
	9	循環器疾患(各論)			
	10	循環器疾患(各論)			
	11	消化器疾患(各論)			
	12	消化器疾患(各論)			
	13	代謝疾患(各論)			
	14	代謝疾患(各論)			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		一般臨床医学Ⅱ			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
授業概要、到達目標						
各種疾患の視診、問診、打診、触診や症状についての知識を学び、疾患に対する適切な判断ができるようになる。						
講 義 内 容	1	内分泌疾患				
	2	内分泌疾患				
	3	血液・造血器疾患				
	4	腎・尿路疾患				
	5	神経疾患				
	6	感染症				
	7	リウマチ・膠原病・アレルギー				
	8	今までの復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		外科学		学年	3
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
感染性疾患や頭部、胸部、腹部など各部の外傷時の症状や対処法、緊急性の高い特徴などが説明できるようになる。					
講 義 内 容	1	損傷、外傷			
	2	炎症			
	3	腫瘍			
	4	ショック			
	5	輸血・輸液			
	6	滅菌と消毒			
	7	手術・麻酔			
	8	移植と免疫			
	9	出血と止血、蘇生術			
	10	脳神経外科疾患			
	11	胸壁・肺・縦隔疾患			
	12	乳腺・心臓疾患			
	13	脈管疾患			
	14	腹部外科疾患			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		整形外科Ⅱ		学年	3
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
様々な外傷に関する知識を学び、柔道整復術の適応の有無が判断できるようになる。					
講 義 内 容	1	柔道整復術の適否を考える			
	2	損傷に類似した症状を示す疾患（背部、胸部、腹部）			
	3	損傷に類似した症状を示す疾患（上肢の痛み、腰痛、見逃してはいけない整形外科疾患）			
	4	損傷に類似した症状を示す疾患（化膿性炎症、軟部組織の圧迫損傷）			
	5	血流障害を伴う損傷			
	6	抹消神経損傷を伴う損傷			
	7	脱臼骨折			
	8	外出血を伴う損傷			
	9	病的骨折および脱臼			
	10	意識障害を伴う損傷			
	11	脊髄症状のある損傷			
	12	呼吸運動障害を伴う損傷			
	13	内臓損傷の合併が疑われる損傷			
	14	高エネルギー外傷			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		社会保障制度学			学年	3
		単位数		1	コマ数	8
授業概要、到達目標						
社会福祉と社会保障制度の理解・医療と社会福祉の関連について学び、地域貢献について説明できるようになる。						
講 義 内 容	1	オリエンテーション、社会保障とは				
	2	公的年金制度、介護保険の意義と仕組み				
	3	医療保険の目的と意義				
	4	療養費とは				
	5	柔道整復療養費と歴史、療養費の推移				
	6	療養費の算定				
	7	療養費請求のケーススタディ				
	8	今までの総復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		公衆衛生学Ⅰ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
感染症や消毒等衛生に関する事項を学び、リスク管理ができるようになる。						
講 義 内 容	1	オリエンテーション 第1章				
	2	第2章健康の概念				
	3	第3章疾病予防と健康管理				
	4	第3章疾病予防と健康管理				
	5	第4章感染症の予防				
	6	第4章感染症の予防				
	7	第4章感染症の予防・第5章消毒				
	8	第5章消毒				
	9	第6章環境保健				
	10	第6章環境保健				
	11	第6章環境保健				
	12	第7章母子保健				
	13	第8章学校保健				
	14	第9章産業保健				
	15	第10章成人、老人保健				
評価方法						
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		公衆衛生学Ⅱ			学年	2
		単位数		1	コマ数	8
授業概要、到達目標						
感染症や消毒等衛生に関する事項を学び、リスク管理ができるようになる。						
講 義 内 容	1	第10章成人・老人保健				
	2	第10章成人・老人保健				
	3	第11章精神保健				
	4	第12章生活環境・食品・衛生活動				
	5	第12章生活環境・食品・衛生活動				
	6	第13章14章地域・国際・衛生行政と保険医療の制度				
	7	第14章衛生行政と保険医療の制度				
	8	15章疫学				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		職業倫理			学年	1
		単位数	1	コマ数	8	
授業概要、到達目標						
柔道整復師が果たすべき役割や倫理観を養い、医療人としての心構えを身に付ける。						
講義内容	1	医療現場に必要な人とは				
	2	インフォームドコンセントと守秘義務				
	3	医療人に求められる接遇、質問方法				
	4	法の遵守(不正について)				
	5	生涯学習の必要性、患者への接し方				
	6	法の遵守(広告の制限)				
	7	医療とボランティア				
	8	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新GPA評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		医学史			学年	3
		単位数	1	コマ数	8	
授業概要、到達目標						
柔道整復師、医療人として医療発展の知識を養い、今後の医療体制について考える力を身につける。						
講 義 内 容	1	柔道整復師と柔道				
	2	柔道整復師と柔道				
	3	医療倫理、コミュニケーション				
	4	基本的人権、患者の権利				
	5	個人情報保護、説明と同意				
	6	リスクマネジメント				
	7	医療事故と医療過誤				
	8	今までの総復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		柔道		学年	3
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
柔道の礼法、技法を身につける他に柔道精神である、精力善用・自他共栄を学ぶことにより社会性を身に付ける。					
講 義 内 容	1	基本動作・確認			
	2	基本動作・確認			
	3	受け身・投げ技・乱取り			
	4	受け身・投げ技・乱取り			
	5	受け身・投げ技・乱取り			
	6	礼法、受身、投げ技、型			
	7	礼法、受身、投げ技、型			
	8	礼法、受身、投げ技、型			
	9	礼法、受身、投げ技、型			
	10	礼法、受身、投げ技、型			
	11	礼法、受身、投げ技、型			
	12	礼法、受身、投げ技、型			
	13	礼法、受身、型、約束乱取			
	14	礼法、受身、型、約束乱取			
	15	今までの復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		関係法規			学年	3
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道整復師法や社会保障制度、受領委任などを理解し、柔道整復師としての役割や行動制限を身につけ、正しい業務がで						
講 義 内 容	1	法の体系(不文法の種類、成文法の種類)、公法と私法				
	2	総則(柔道整復師法の目的、定義)				
	3	柔道整復師免許(要件、申請、名簿、取消、証明書、書き換え交付、再交付、返納)				
	4	柔道整復師国家試験(受験資格、受験停止、受験手続、合格証書)				
	5	柔道整復師の業務(名称独占、業務独占)				
	6	柔道整復師の業務範囲(施術の制限、外科手術・薬物投与の禁止、放射線の扱い)				
	7	守秘義務				
	8	施術所について(届け出、構造設備、監督)				
	9	広告の制限、名称の制限				
	10	罪刑法定主義、柔道整復師法に定められる罰則				
	11	両罰規定				
	12	医療従事者の資格法				
	13	社会福祉関係法規				
	14	社会保険関係法規				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		基礎柔整学Ⅰ			学年	1
			単位数	5	コマ数	38
授業概要、到達目標						
骨折や脱臼その他筋・腱・靱帯等の軟部組織損傷に対して基本的知識を身に付け、説明できるようになる。						
講 義 内 容	1	第Ⅰ章 概説 1.柔道整復術および柔道整復師の沿革/歴史・概説				
	2	第Ⅱ章 概説 2.業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領				
	3	第Ⅱ章 柔道整復術とは(概論)				
	4	骨の形態と機能				
	5	骨の形態と機能				
	6	関節構成組織				
	7	関節構成組織				
	8	人体に加わる力、損傷に関する身体の基礎的状态				
	9	損傷時に加わる力				
	10	骨損傷の概説 骨損傷の分類(骨の性状による分類)				
	11	骨損傷の分類(骨損傷の程度による分類)				
	12	骨損傷の分類(骨折線の方向、骨折数、骨折部と外創との交通の有無)				
	13	骨損傷の分類(外力の働いた部位、外力の働き方【裂離骨折・剥離骨折】)				
	14	骨損傷の分類(外力の働き方による分類【屈曲骨折・圧迫・剪断】)				
	15	骨損傷の分類(骨折の部位による分類、骨折の経過による分類)				
	16	骨折の一般外傷症状				
	17	骨折の固有症状				
	18	骨折の全身症状				
	19	骨折の合併症(併発症) と症状				
	20	骨折の合併症(併発症) と症状				
	21	骨折の合併症(併発症) と症状				
	22	骨折の合併症(続発症) と症状				
	23	骨折の合併症(続発症) と症状				
	24	骨折の合併症(続発症) と症状				
	25	骨折の合併症(後遺症) と症状				
	26	骨折の合併症(後遺症) と症状				
	27	骨折の合併症(後遺症) と症状				
	28	小児骨折の特徴				
	29	小児骨折の特徴				
	30	高齢者骨折の特徴				
	31	高齢者骨折の特徴				
	32	骨折の癒合日数および骨折の治癒経過				
	33	骨折の癒合日数および骨折の治癒経過				
	34	骨折の癒合日数および骨折の治癒経過				
	35	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子				
	36	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子				
	37	今までの総復習				
	38	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		基礎柔整学Ⅱ			学年	1
		単位数		5	コマ数	38
授業概要、到達目標						
骨折や脱臼その他筋・腱・靱帯等の軟部組織損傷に対して基本的知識を身に付け、説明できるようになる。						
講 義 内 容	1	関節損傷(関節の構造と機能)				
	2	関節損傷(関節構成組織)				
	3	関節損傷の概説、関節損傷の分類、鑑別診断を要する類症				
	4	関節損傷(損傷の程度による分類と症状、合併症)				
	5	靱帯損傷の治癒機序				
	6	関節周辺の筋・腱損傷(概説、発生頻度、機序、分類)				
	7	関節軟骨損傷(発生頻度、発生機序)、関節軟骨損傷分類				
	8	関節軟骨損傷(症状、合併症、治癒機序、予後)				
	9	脱臼(定義、発生頻度、分類)、脱臼の症状				
	10	脱臼の合併症				
	11	脱臼の整復障害、脱臼の経過と予後				
	12	筋の損傷(構造と機能)、筋損傷の概説、筋損傷を起こす力				
	13	筋損傷の分類(性状による分類、損傷程度による分類、損傷部位による分類)				
	14	筋損傷の分類(外力の働いた部位による分類、働き方による分類、創部との交通による分類)				
	15	筋損傷の症状と治癒機序、予後				
	16	腱損傷(構造と機能)				
	17	腱損傷の概説、腱損傷を起こす力				
	18	腱損傷の分類(性状による分類、損傷程度による分類、損傷部位による分類)				
	19	腱損傷の分類(外力の働いた部位による分類、働き方による分類)				
	20	腱損傷の治癒機序				
	21	末梢神経損傷(構造と機能)				
	22	末梢神経損傷の分類(原因・程度・外力の働いた部位、外力の働き方)				
	23	末梢神経損傷の症状				
	24	診察時の注意点、診察の時期による分類、治療計画作成、施術録の記載				
	25	骨折の整復法の要点、整復法の分類(牽引直圧整復法、屈曲整復法)				
	26	脱臼の整復法				
	27	固定概説(固定の目的、種類、範囲、肢位、期間、材料)				
	28	後療法(手技療法、運動療法)				
	29	後療法(手技療法、運動療法)				
	30	外傷の保存療法 (保存療法の適応と意義についての概説)				
	31	外傷の保存療法 (皮膚損傷の初期処置・固定法・指導管理)				
	32	外傷の保存療法 (腱損傷の初期処置・固定法・後療法・指導管理)				
	33	外傷の保存療法 (筋損傷の初期処置・固定法・後療法・指導管理)				
	34	外傷の保存療法 (上肢骨折の初期処置・整復法・固定法・後療法・指導管理)				
	35	外傷の保存療法 (上肢脱臼の初期処置・整復法・固定法・後療法・指導管理)				
	36	外傷の保存療法 (下肢骨折の初期処置・整復法・固定法・後療法・指導管理)				
	37	外傷の保存療法 (下肢脱臼の初期処置・整復法・固定法・後療法・指導管理)				
	38	定期試験の振り返り				

評価方法						
評価基準	新 評 価 A	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床柔整学Ⅰ		学年	2
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
上肢を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるように					
講 義 内 容	1	鎖骨骨折			
	2	鎖骨骨折・鎖骨周囲筋			
	3	肩甲骨骨折			
	4	上腕骨骨折(近位一骨幹部)			
	5	上腕骨骨折(遠位端部)			
	6	前腕骨骨折(近位端部)			
	7	前腕骨骨折(骨幹部一遠位端部)			
	8	手根骨骨折			
	9	中手骨骨折			
	10	指骨骨折			
	11	胸鎖関節脱臼			
	12	肩関節脱臼			
	13	肘関節脱臼			
	14	手根骨一手指部の脱臼			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床柔整学Ⅱ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
上肢を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	肩部の軟部組織損傷				
	2	肘部の軟部組織損傷				
	3	前腕部の神経障害について				
	4	手・手指部の軟部組織損傷				
	5	手・手指部の変形				
	6	総論・骨折について				
	7	総論・脱臼について				
	8	総論・筋、靱帯損傷について				
	9	総論・神経、血管損傷について				
	10	総論・固定法、治療法、評価について				
	11	頭部の損傷				
	12	顔面・胸部の損傷				
	13	脊椎・頸部損傷				
	14	脊椎・胸部損傷				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床柔整学Ⅲ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
下肢を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	膝関節軟部組織損傷				
	2	膝関節半月板損傷徒手検査法 腸脛靱帯摩擦症候群				
	3	アキレス腱断裂 足関節軟部組織損傷				
	4	足関節軟部組織損傷 アキレス腱断裂固定法				
	5	頭部損傷 顎関節脱臼 足関節軟部組織検査法				
	6	顎関節脱臼 顎関節症				
	7	足関節軟部組織損傷 膝関節軟部組織損傷				
	8	肋骨骨折 胸骨骨折 顎関節脱臼 顎関節症				
	9	胸骨骨折 脊椎骨折 頸部損傷				
	10	胸骨骨折 脊椎管狭窄症				
	11	骨盤骨折				
	12	大腿骨頸部骨折 大腿骨小転子骨折				
	13	頭部損傷 下腿骨骨折 下腿軟部組織損傷				
	14	下肢軟部組織損傷徒手検査法				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床柔整学Ⅳ			学年	2
		単位数			コマ数	
授業概要、到達目標						
下肢を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	下腿三頭筋損傷				
	2	シンスプリント アキレス腱断裂 アキレス腱炎				
	3	アキレス腱炎 アキレス腱滑液包炎 足関節軟部組織損傷				
	4	足関節軟部組織損傷				
	5	足関節ショパール関節損傷 リスフラン関節損傷				
	6	足指損傷 偏平足 外反母趾				
	7	足部損傷				
	8	大腿骨骨幹部骨折				
	9	大腿骨骨幹部骨折				
	10	脛骨顆間隆起骨折 脛骨粗面骨折 脛骨骨折				
	11	腓骨骨折 脛骨骨折 足関節外転型骨折				
	12	三顆部骨折 距骨骨折 踵骨骨折				
	13	第5中足骨骨折 股関節脱臼 膝蓋骨脱臼				
	14	膝蓋骨脱臼 膝関節脱臼 足母指足背脱臼				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 G P A 評価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		臨床柔整学Ⅴ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
頭部・体幹を中心とした各部損傷の発生原因・整復法、固定法、指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる						
講義内容	1	頸部の脱臼・骨折				
	2	頸部の脱臼・骨折				
	3	頸部の脱臼・骨折				
	4	頸部の疾患				
	5	頸部の疾患				
	6	頸部の疾患				
	7	頸部の疾患				
	8	脊椎の脱臼・骨折				
	9	脊椎の脱臼・骨折				
	10	胸部の疾患				
	11	胸部の疾患				
	12	胸部の疾患				
	13	腰部の疾患				
	14	腰部の疾患				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床柔整学Ⅵ			学年	2
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
各種軟部組織損傷の発生原因・検査法・治療法・指導管理方法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	肩部の軟部組織損傷				
	2	肩部の軟部組織損傷				
	3	肘部の軟部組織損傷				
	4	肘部の軟部組織損傷				
	5	手関節部の軟部組織損傷				
	6	手指部の軟部組織損傷				
	7	手指部の変形				
	8	股関節の軟部組織損傷				
	9	股関節の軟部組織損傷				
	10	大腿部の軟部組織損傷				
	11	膝部の軟部組織損傷				
	12	膝部の軟部組織損傷				
	13	下腿部の軟部組織損傷				
	14	足関節の軟部組織損傷				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床判定学			学年	2
		単位数		1	コマ数	15
授業概要、到達目標						
外傷の症状から、様々な原因を考えることができ、それぞれの対処方法を考え、実行できるようになる。						
講 義 内 容	1	施術の適応判断の必要性				
	2	損傷に類似した症状を示す疾患（背部、胸部、腹部、肩部、上肢）				
	3	腰痛を伴う疾患				
	4	血流障害が疑われる場合の判断と対応				
	5	抹消神経損傷が疑われる場合の判断と対応				
	6	脱臼骨折が疑われる場合の判断と対応				
	7	外出血がある場合の判断と対応				
	8	病的骨折および脱臼が疑われる場合の判断と対応				
	9	意識障害がみられる場合の判断と対応				
	10	脊髄損傷がみられる場合の判断と対応				
	11	異常呼吸がみられる場合の判断と対応				
	12	X線写真の見方				
	13	超音波画像診断機の扱い方・見方				
	14	超音波画像診断機の扱い方・見方				
	15	定期試験の振り返り				
評価方法						
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		総合柔整学Ⅰ		学年	3
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
各種損傷の原因・整復法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる					
講義内容	1	頭部外傷(下顎損傷における併発症)			
	2	頭部外傷(下顎損傷における合併症)			
	3	頭部外傷(外傷と脳損傷の鑑別)			
	4	頭部外傷(外傷と脳損傷の鑑別)			
	5	頭部外傷(外傷と脳損傷の鑑別)			
	6	頭部外傷(眼窩付近の損傷)			
	7	胸部外傷(鎖骨骨折から判断すべき合併症)			
	8	胸部外傷(鎖骨骨折から判断すべき合併症)			
	9	胸部外傷(鎖骨骨折から判断すべき合併症)			
	10	胸部外傷(肋骨骨折から判断すべき合併症)			
	11	胸部外傷(肋骨骨折から判断すべき合併症)			
	12	胸部外傷(肋骨骨折から判断すべき合併症)			
	13	胸部外傷(胸骨骨折から判断すべき合併症)			
	14	体幹損傷(脊椎損傷から判断すべき合併症)			
	15	体幹損傷(脊椎損傷から判断すべき合併症)			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		総合柔整学Ⅱ		学年	
		単位数		コマ数	
授業概要、到達目標					
各種損傷の原因・整復法等の知識や技術を学び、現場で対応できるようになる。					
講 義 内 容	1	体幹損傷（脊椎損傷から判断すべき合併症）			
	2	体幹損傷（脊椎損傷から判断すべき合併症）			
	3	体幹損傷（脊椎損傷から判断すべき合併症）			
	4	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	5	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	6	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	7	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	8	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	9	腰背部痛から判断すべき損傷（外傷と内科疾患との鑑別）			
	10	バイタルサインの基礎			
	11	バイタルサインから判断すべき疾患			
	12	バイタルサインから判断すべき疾患			
	13	バイタルサインから判断すべき疾患			
	14	バイタルサインから判断すべき疾患			
	15	視診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	16	視診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	17	視診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	18	視診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	19	聴診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	20	聴診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	21	聴診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	22	聴診から判断すべき損傷（外傷、内科疾患）			
	23	正常歩行の基礎			
	24	異常歩行から想定される疾患			
	25	異常歩行から想定される疾患			
	26	異常歩行から想定される疾患			
	27	臨床実施問題			
	28	臨床実施問題			
	29	臨床実施問題			
	30	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A （ 新 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		総合柔整学Ⅲ		学年	3
		単位数	3	コマ数	45
授業概要、到達目標					
骨折、脱臼、軟部組織損傷における、発生機序、治療方法を説明できる様になる。※物理療法の取り扱いを含む <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>					
講 義 内 容	1	物理療法の種類と役割（物理療法機器等の取り扱い）			
	2	エコーを用いての軟部組織確認の注意点と使用方法（物理療法機器等の取り扱い）			
	3	エコーを用いての軟部組織確認演習（物理療法機器等の取り扱い）			
	4	エコーを用いての軟部組織確認演習（物理療法機器等の取り扱い）			
	5	電器療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）			
	6	寒冷療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）			
	7	光線療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）			
	8	温熱療法を行う機器や役割、禁忌事項（物理療法機器等の取り扱い）			
	9	上肢の骨折（鎖骨、肩甲骨）			
	10	上肢の骨折（上腕骨、前腕骨）			
	11	上肢の骨折（手根骨、指骨）			
	12	上肢の脱臼（肩関節）			
	13	上肢の脱臼（肘関節）			
	14	上肢の脱臼（指節関節）			
	15	上肢の軟損（肩関節周囲）			
	16	上肢の軟損（肘関節周囲）			
	17	上肢の軟損（手関節周囲）			
	18	上肢の損傷における血管損傷			
	19	上肢の損傷における血管損傷			
	20	上肢の損傷における神経損傷			
	21	上肢の骨折における神経損傷			
	22	上肢の損傷のまとめ			
	23	下肢の骨折（大腿骨）			
	24	下肢の骨折（下腿骨）			
	25	下肢の骨折（足根骨）			
	26	下肢の脱臼（股関節）			
	27	下肢の脱臼（膝関節、膝蓋骨）			
	28	下肢の軟損（大腿部）			
	29	下肢の軟損（下腿部）			
	30	下肢の軟損（下腿部）			
	31	下肢の損傷における血管損傷			
	32	下肢の損傷における血管損傷			
	33	下肢の損傷における神経損傷			
	34	下肢の損傷における神経損傷			
	35	下肢の損傷のまとめ			
	36	脊椎部の骨折			
	37	脊椎部の脱臼			
	38	脊椎外傷のまとめ			
	39	頭部、体幹の軟損組織損傷			
	40	頭部、体幹の損傷における血管損傷			
	41	頭部、体幹の損傷における神経損傷			
	42	臨床実施問題			
	43	臨床実施問題			
	44	臨床実施問題			
	45	今までの総復習			

評価方法					
評 価 基 準	新 （ G 評 P 価 A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		総合柔整学Ⅳ			学年	3
		単位数		3	コマ数	45
授業概要、到達目標						
骨折、脱臼、軟部組織損傷における、発生機序、治療方法を説明できる様になる。						
講 義 内 容	1	肩部の軟部組織損傷				
	2	肘部の軟部組織損傷				
	3	前腕部の神経障害について				
	4	手・手指部の軟部組織損傷				
	5	手・手指部の変形				
	6	総論・骨折について				
	7	総論・脱臼について				
	8	総論・筋、靱帯損傷について				
	9	総論・神経、血管損傷について				
	10	総論・固定法、治療法、評価について				
	11	頭部の損傷				
	12	顔面・胸部の損傷				
	13	脊椎・頸部損傷				
	14	脊椎・胸部損傷				
	15	膝関節軟部組織損傷				
	16	膝関節半月板損傷徒手検査法 腸脛靱帯摩擦症候群				
	17	アキレス腱断裂 足関節軟部組織損傷				
	18	足関節軟部組織損傷 アキレス腱断裂固定法				
	19	頭部損傷 顎関節脱臼 足関節軟部組織検査法				
	20	顎関節脱臼 顎関節症				
	21	足関節軟部組織損傷 膝関節軟部組織損傷				
	22	肋骨骨折 胸骨骨折 顎関節脱臼 顎関節症				
	23	胸骨骨折 脊椎骨折 頸部損傷				
	24	胸骨骨折 椎管狭窄症				
	25	骨盤骨折				
	26	大腿骨頸部骨折 大腿骨小転子骨折				
	27	頭部損傷 下腿骨骨折 下腿軟部組織損傷				
	28	下肢軟部組織損傷徒手検査法				
	29	下腿三頭筋損傷				
	30	シンスプリント アキレス腱断裂 アキレス腱炎				
	31	足関節軟部組織損傷				
	32	足関節ショパール関節損傷 リスフラン関節損傷				
	33	足指損傷 偏平足 外反母趾				
	34	足部損傷				
	35	大腿骨骨幹部骨折				
	36	大腿骨骨幹部骨折				
	37	脛骨顆間隆起骨折 脛骨粗面骨折 脛骨骨折				
	38	腓骨骨折 脛骨骨折 足関節外転型骨折				
	39	三顆部骨折 距骨骨折 踵骨骨折				
	40	第5中足骨骨折 股関節脱臼 膝蓋骨脱臼				
	41	膝蓋骨脱臼 膝関節脱臼 足母指足背脱臼				
	42	臨床想定問題				
	43	臨床想定問題				
	44	臨床想定問題				
	45	今までの総復習				

評価方法						
評 価 基 準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		運動器基礎 I			学年	1
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道整復師として学ぶ多くの科目にかかわる、上肢の骨、関節、筋の構造、役割、しくみを知り、筋の走行イメージから作用						
講 義 内 容	1	上肢の骨				
	2	上肢の骨				
	3	上肢の関節と靱帯				
	4	上肢の関節と靱帯				
	5	上肢帯の筋				
	6	上肢帯の筋				
	7	上腕の筋				
	8	上腕の筋				
	9	前腕の筋(屈筋群)				
	10	前腕の筋(伸筋群)				
	11	手の筋(母指球筋)				
	12	手の筋(小指球筋)				
	13	手の筋(中手筋)				
	14	今までの総復習				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		運動器基礎Ⅱ			学年	1
		単位数		2	コマ数	15
授業概要、到達目標						
柔道整復師として学ぶ多くの科目にかかわる、下肢の骨、関節、筋の構造、役割、しくみを知り、筋の走行イメージから作用						
講 義 内 容	1	下肢の骨				
	2	下肢の骨				
	3	下肢の関節と靱帯				
	4	下肢の関節と靱帯				
	5	下肢帯の筋(内寛骨筋)				
	6	下肢帯の筋(外寛骨筋)				
	7	大腿の筋 屈筋群				
	8	大腿の筋 伸筋群				
	9	大腿の筋 内転筋群				
	10	大腿三角、鵞足、内転筋管、筋裂孔				
	11	下腿の筋 屈筋群				
	12	下腿の筋 伸筋群				
	13	下腿の筋 腓骨筋群				
	14	足の筋				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		運動器基礎Ⅲ		学年	1
		単位数	2	コマ数	15
授業概要、到達目標					
柔道整復師として学ぶ多くの科目にかかわる、体幹の骨、関節、筋の構造、役割、しくみを知り、筋の走行イメージから作用					
講 義 内 容	1	頸部の筋			
	2	頸部の筋			
	3	脊柱を構成する骨とその名称			
	4	椎骨の基本的構造			
	5	頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾骨の特徴			
	6	脊柱の関節と靱帯			
	7	胸郭を構成する骨の名称とその数			
	8	背部の筋 浅背筋			
	9	背部の筋 深背筋			
	10	胸部の筋 浅胸筋			
	11	胸部の筋 深胸筋			
	12	横隔膜			
	13	腹部の筋			
	14	腹部の筋			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		外傷予防Ⅰ			学年	3
		単位数	1	コマ数	15	
授業概要、到達目標						
高齢者の外傷予防についての知識、技術を学び、現場で対応できるようになる。						
講 義 内 容	1	高齢者の解剖学的特徴				
	2	高齢者の生理学的特徴				
	3	高齢者の日常生活上の特徴(活動度や歩様など)				
	4	高齢者外傷の特徴(受傷機序および好発部位など)				
	5	高齢者の治療上の特徴や注意点				
	6	転倒予防① 歩行時の注意点(階段昇降や段差など)				
	7	転倒予防① 歩行時の注意点 実技				
	8	転倒予防② 筋力トレーニングなどについて				
	9	転倒予防② 筋力トレーニングなど 実技				
	10	転倒予防③ 歩行補助具(杖・歩行器などについて)				
	11	転倒予防③ 歩行補助具 装着・利用法 実技				
	12	転倒、受傷後の対応① 介助や各疾患部位に対する注意など				
	13	転倒、受傷後の対応② 術後対応や全身状態などについて				
	14	外傷予防のまとめ				
	15	今までの総復習				
評価方法						
評価基準	新 評 価 (G P A)	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。				
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。				
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。				
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。				
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。				
備考						

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		外傷予防Ⅱ		学年	3
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
競技者の外傷予防についての知識、技術を学び、現場で対応できるようになる。					
講 義 内 容	1	運動生理学の概要(運動のメリット・デメリット、運動とエネルギー代謝)			
	2	運動とホルモン			
	3	競技者の運動生理学的特徴			
	4	競技者の外傷予防の概要			
	5	外傷の発生要因			
	6	外傷の予防対策			
	7	メディカルチェック 評価と測定			
	8	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際			
	9	柔道における肩関節の外傷予防			
	10	水泳における体幹の傷害予防			
	11	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防			
	12	サッカーにおける足関節の外傷予防			
	13	成長期の外傷予防			
	14	高齢者の外傷予防			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 G P A 新 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		機能訓練演習		学年	1
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
高齢者に対する評価や運動療法、松葉づえ指導、車椅子移動など、福祉系で活躍できる知識やスキルを身につける。					
講 義 内 容	1	高齢者向けのリハビリテーションの必要性和注意点			
	2	軟部組織損傷徒手検査法と評価(上肢)			
	3	軟部組織損傷徒手検査法と評価(上肢)			
	4	軟部組織損傷徒手検査法と評価(下肢)			
	5	軟部組織損傷徒手検査法と評価(下肢)			
	6	関節可動域訓練			
	7	関節可動域訓練			
	8	関節可動域訓練			
	9	関節可動域訓練 筋力強化法			
	10	関節可動域訓練 筋力強化法			
	11	関節可動域訓練 筋力強化法			
	12	松葉杖歩行 車椅子			
	13	松葉杖歩行 車椅子			
	14	血圧測定法			
	15	ディサービスの現状と介護保険の取り扱いについて			
評価方法					
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅰ		学年	2
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、外傷患者に対しての対応ができるようになる ※実務経験のある教員等による授業科目となる					
講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明			
	2	腱板損傷評価法			
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法			
	4	ハムストリングス損傷評価法			
	5	大腿四頭筋打撲評価法			
	6	膝関節側副靱帯損傷評価法			
	7	膝関節十字靱帯損傷評価法			
	8	膝関節半月板損傷評価法			
	9	下腿三頭筋損傷評価法			
	10	足関節外側靱帯損傷評価法			
	11	アキレス腱断裂評価法			
	12	アキレス腱断裂 クラメル固定法			
	13	足関節外側靱帯損傷 局所副子固定法			
	14	膝関節内側側副靱帯損傷 Xサポートテープ固定法			
	15	足関節外側靱帯損傷 バスケットウィーブテープ固定法			
	16	足関節外側側副靱帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定法			
	17	問診、誘導、評価（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷）			
	18	問診、誘導、評価（膝関節半月板・側副靱帯・十字靱帯損傷）			
	19	問診、誘導、評価（大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靱帯損傷）			
	20	問診、誘導、固定（足関節外側側副靱帯損傷固定）			
	21	問診、誘導、固定（アキレス腱断裂固定）			
	22	問診、誘導、固定（膝関節側副靱帯損傷固定）			
	23	評価～固定全般の復習			

評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		柔整実技Ⅱ		学年	2
		単位数	2	コマ数	45
授業概要、到達目標					
患者の移動、問診、触診、徒手検査、整復、固定の他、外傷患者に対しての対応ができるようになる。 ※実務経験のある教員等による授業科目となる					
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について			
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）			
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）			
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）			
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）			
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）			
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）			
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）			
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）			
	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）			
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）			
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	22	整復法総復習			
	23	定型的鎖骨骨折 固定			
	24	定型的鎖骨骨折 固定			
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定			
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定			
	27	コーレス骨折固定			
	28	コーレス骨折固定			
	29	肩鎖関節上方脱臼固定			
	30	肩鎖関節上方脱臼固定			
	31	肩関節前方脱臼固定			
	32	肩関節前方脱臼固定			
	33	肘関節後方脱臼固定			
	34	肘関節後方脱臼固定			
	35	第5指中手骨頸部骨折固定			
	36	第5指中手骨頸部骨折固定			
	37	下腿骨骨幹部骨折固定			
	38	下腿骨骨幹部骨折固定			
	39	肋骨骨折固定			
	40	肋骨骨折固定			
	41	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	42	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	43	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	44	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	45	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		柔整実技Ⅲ		学年	3
		単位数		コマ数	45
授業概要、到達目標					
柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法、軟部組織損傷の評価法等の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。 <u>※実務経験のある教員等による授業科目となる</u>					
講 義 内 容	1	オリエンテーション、認定実技について			
	2	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	3	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	4	定型的鎖骨骨折の坐位による整復（診療ベッド）			
	5	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	6	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	7	上腕骨外科頸外転型骨折の背臥位による整復（診療ベッド）			
	8	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）			
	9	コーレス骨折の背臥位による屈曲整復法（診療ベッド）			
	10	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）			
	11	コーレス骨折の坐位による屈曲整復法（椅子）			
	12	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）			
	13	コーレス骨折の背臥位による牽引直圧整復法（診療ベッド）			
	14	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）			
	15	コーレス骨折の坐位による牽引直圧整復法（椅子）			
	16	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）			
	17	肩鎖関節上方脱臼の坐位による整復（診療ベッド）			
	18	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	19	肩関節前方烏口下脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	20	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	21	肘関節後方脱臼の背臥位による整復（診療ベッド）			
	22	整復法総復習			
	23	定型的鎖骨骨折 固定			
	24	定型的鎖骨骨折 固定			
	25	上腕骨骨幹部骨折 固定			
	26	上腕骨骨幹部骨折 固定			
	27	コーレス骨折固定			
	28	コーレス骨折固定			
	29	肩鎖関節上方脱臼固定			
	30	肩鎖関節上方脱臼固定			
	31	肩関節前方脱臼固定			
	32	肩関節前方脱臼固定			
	33	肘関節後方脱臼固定			
	34	肘関節後方脱臼固定			
	35	第5指中手骨頸部骨折固定			
	36	第5指中手骨頸部骨折固定			
	37	下腿骨骨幹部骨折固定			
	38	下腿骨骨幹部骨折固定			
	39	肋骨骨折固定			
	40	肋骨骨折固定			
	41	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	42	手第2指PIP関節背側脱臼固定			
	43	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	44	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
	45	整復・固定の誘導・評価・問診からの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整実技Ⅳ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
柔道整復学を活用し、模擬的に整復法や固定法、軟部組織損傷の評価法等の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。					
※実務経験のある教員等による授業科目となる					
講 義 内 容	1	オリエンテーション。認定実技の流れ説明			
	2	腱板損傷評価法			
	3	上腕二頭筋長頭腱損傷評価法			
	4	ハムストリングス損傷評価法			
	5	大腿四頭筋打撲評価法			
	6	膝関節側副靱帯損傷評価法			
	7	膝関節十字靱帯損傷評価法			
	8	膝関節半月板損傷評価法			
	9	下腿三頭筋損傷評価法			
	10	足関節外側靱帯損傷評価法			
	11	アキレス腱断裂評価法			
	12	アキレス腱断裂 クラメル固定法			
	13	足関節外側靱帯損傷 局所副子固定法			
	14	膝関節内側側副靱帯損傷 Xサポートテープ固定法			
	15	足関節外側靱帯損傷 バスケットウィーブテープ固定法			
	16	足関節外側側副靱帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロック固定法			
	17	問診、誘導、評価（腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、ハムストリングス損傷）			
	18	問診、誘導、評価（膝関節半月板・側副靱帯・十字靱帯損傷）			
	19	問診、誘導、評価（大腿四頭筋打撲、下腿三頭筋損傷、足関節外側靱帯損傷）			
	20	問診、誘導、固定（足関節外側側副靱帯損傷固定）			
	21	問診、誘導、固定（アキレス腱断裂固定）			
	22	問診、誘導、固定（膝関節側副靱帯損傷固定）			
	23	評価～固定全般の復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		総合手技 I		学年	1
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
柔道整復師として患者の身体を的確に把握し、適切な体表観察ができるようになる。					
講 義 内 容	1	ヒトの動作ごとの面と軸			
	2	関節運動ごとのてこ分類			
	3	骨の構造と機能			
	4	骨の構造と機能			
	5	骨の構造と機能			
	6	関節の種類と分類、筋線維の種類と分類			
	7	関節の種類と分類、筋線維の種類と分類			
	8	神経の構造と機能			
	9	神経の構造と機能			
	10	運動感覚と運動の制御機構			
	11	運動感覚と運動の制御機構			
	12	反射のメカニズム、反射中枢の部位による分類			
	13	上肢帯、肩関節の運動と関わる筋			
	14	上肢帯、肩関節の運動と関わる筋			
	15	肘関節、手関節の運動と関わる筋			
	16	肘関節、手関節の運動と関わる筋			
	17	股関節、膝関節の運動と関わる筋			
	18	股関節、膝関節の運動と関わる筋			
	19	足関節に関わる筋			
	20	足関節に関わる筋			
	21	ヒトの姿勢と重心			
	22	ヒトの姿勢と重心			
	23	今までの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		総合手技Ⅱ		学年	2
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
柔道整復師として患者の身体状態を的確に把握し、それに対する適切なアプローチができるようになる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	運動療法の種類と実施方法			
	3	手技療法の種類と実施方法			
	4	ストレッチ実施における注意点			
	5	体幹の筋肉の走行、動きの確認			
	6	頸部のストレッチ			
	7	背部のストレッチ			
	8	腰部のストレッチ			
	9	殿部のストレッチ			
	10	体幹におけるストレッチの復習			
	11	上肢の筋肉の走行、動きの確認			
	12	肩甲骨周囲のストレッチ			
	13	肩関節周囲のストレッチ			
	14	肘関節周囲のストレッチ			
	15	手関節周囲のストレッチ			
	16	上肢のストレッチの復習			
	17	下肢の筋肉の走行、動きの確認			
	18	股関節周囲のストレッチ			
	19	大腿部のストレッチ			
	20	下腿部のストレッチ			
	21	足関節周囲のストレッチ			
	22	下肢のストレッチの復習			
	23	ストレッチの総復習(全身)			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		総合手技Ⅲ		学年	3
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
様々な患者の状態に応じて、自らの力で評価・治療計画を考え、それらが実行できるようになる。					
講 義 内 容	1	リハビリテーションとは			
	2	腰部の構造と運動			
	3	腰部の痛みに対する評価とアプローチ			
	4	脊椎の可動域改善のためのリハビリテーション			
	5	肩部の構造と運動			
	6	肩部の痛みに対する評価とアプローチ			
	7	肩関節部の可動域改善のためのリハビリテーション			
	8	肘部の痛みに対する評価とアプローチ			
	9	手部の痛みに対する評価とアプローチ			
	10	股関節の構造と運動			
	11	股関節部の痛みに対する評価とアプローチ			
	12	股関節部の可動域改善のためのリハビリテーション			
	13	膝関節の構造と運動			
	14	膝部の痛みに対する評価とアプローチ			
	15	膝関節の可動域改善のためのリハビリテーション			
	16	足関節の構造と運動			
	17	足関節周辺の痛みに対する評価とアプローチ			
	18	足関節周辺の痛みに対する評価とアプローチ			
	19	足関節の可動域改善のためのリハビリテーション			
	20	足関節の可動域改善のためのリハビリテーション			
	21	全身の評価とアプローチ			
	22	全身の評価とアプローチ			
	23	今までの総復習			

評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			単位認定
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整演習Ⅰ		学年	3
		単位数		コマ数	30
授業概要、到達目標					
様々な骨折・脱臼・軟部組織損傷に対しての知識を身につけ、適切な判断ができるようになる。					
講 義 内 容	1	鎖骨骨折の診察及び整復			
	2	鎖骨骨折の固定			
	3	上腕骨外科頸骨折の診察及び整復			
	4	上腕骨外科頸骨折の固定			
	5	上腕骨骨幹部骨折の固定			
	6	コーレス骨折の診察及び整復			
	7	コーレス骨折の固定			
	8	第5中手骨骨折の固定			
	9	肋骨骨折の固定			
	10	肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復			
	11	肩鎖関節上方脱臼の固定			
	12	肩関節脱臼の診察及び整復			
	13	肩関節脱臼の固定			
	14	肘関節脱臼の診察及び整復			
	15	肘関節脱臼の固定			
	16	肘内障の診察及び整復			
	17	示指PIP関節背側脱臼の固定			
	18	肩腱板損傷の診察			
	19	大腿部軟部組織損傷の診察			
	20	膝関節側副靱帯損傷の診察			
	21	膝関節十字靱帯損傷の診察			
	22	膝半月板損傷の診察			
	23	膝関節側副靱帯損傷の固定			
	24	下腿三頭筋肉離れの診察			
	25	アキレス腱断裂の固定			
	26	足関節外側靱帯損傷の診察			
	27	足関節外側靱帯損傷の固定			
	28	下腿骨骨幹部骨折の固定			
	29	包帯法			
	30	今までの総復習			
評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整演習Ⅱ		学年	3
		単位数	2	コマ数	30
授業概要、到達目標					
柔道整復業に限らず、様々な知識を身につけて、現場で出会う患者のために適切な評価・治療判断ができるようになる。					
講 義 内 容	1	消化器(食道、胃、小腸、大腸)の種類と構造			
	2	消化器(食道、胃、小腸、大腸)の種類と構造			
	3	消化器(食道、胃、小腸、大腸)の機能			
	4	消化器(食道、胃、小腸、大腸)の機能			
	5	呼吸器(気管、肺)の構造			
	6	呼吸の仕組み			
	7	泌尿器(腎臓、尿管、膀胱)の構造			
	8	尿生成の仕組み			
	9	男性生殖器の構造			
	10	女性生殖器の構造、性周期			
	11	ホルモンの分泌器官とホルモンの役割			
	12	ホルモンの分泌器官とホルモンの役割			
	13	ホルモンの分泌器官とホルモンの役割			
	14	脳の構造・機能局在と障害時の症状			
	15	脳脊髄液の生成と経路			
	16	脊髄の構造と伝導路(上行性伝導路、下行性伝導路)			
	17	静止膜電位と活動電位			
	18	脳神経とその役割			
	19	神経叢			
	20	交感神経と副交感神経の役割と拮抗支配について			
	21	皮膚の構造を感覚受容器			
	22	眼球の構造			
	23	ものが見える仕組み			
	24	聴覚(外耳、中耳、内耳)の構造			
	25	音の感じる仕組みと平衡感覚の仕組み			
	26	嗅覚器官の構造と仕組み			
	27	味覚器官の構造と仕組み			
	28	復習			
	29	復習			
	30	総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 G P A 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		包帯実技		学年	1
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
包帯の基本的な巻き方の技術を習得し、基礎的な包帯が巻けるようになる。					
講 義 内 容	1	実技説明 包帯説明			
	2	包帯の持ち方 巻き戻し方			
	3	環行帯 螺旋帯			
	4	蛇行帯 前腕折転帯			
	5	下腿折転帯			
	6	肘関節離開亀甲帯 集合亀甲帯			
	7	膝関節離開亀甲帯 集合亀甲帯			
	8	手指・手関節麦穂帯			
	9	足指			
	10	手関節～前腕～肘			
	11	足関節 麦穂帯～三節帯			
	12	足関節～下腿～膝関節			
	13	肩関節上行麦穂帯(順巻・逆巻)			
	14	肩関節下行麦穂帯(順巻・逆巻)			
	15	肘関節～上腕～肩関節			
	16	ヴェルポー帯(右)			
	17	ヴェルポー帯(左)			
	18	ジュール帯(右)			
	19	ジュール帯(左)			
	20	デゾー(右)			
	21	デゾー(左)			
	22	シーネ 前腕			
	23	復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		テーピングⅠ		学年	1
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
固定用テーピングの基本的な巻き方の技術を習得し、主要な関節のテーピングが巻けるようになる。					
講 義 内 容	1	スポーツ外傷・障害 テープ説明			
	2	足関節 クローズドバスケット			
	3	足関節 クローズドバスケット			
	4	足関節 オープンバスケット			
	5	足関節 オープンバスケット			
	6	足関節 25ミリ強固定			
	7	足関節 ホワイトテープのヒールロック			
	8	足関節復習			
	9	足指 母趾MP関節 固定テーピング			
	10	踵 テーピング			
	11	アキレス腱炎テーピング			
	12	下腿肉離れ時のテーピング			
	13	下肢 復習			
	14	手指 MP関節 テーピング			
	15	手関節 テーピング			
	16	総復習			
	17	肩鎖関節脱臼 ロバートジョーンズ固定			
	18	鎖骨骨折 セイヤー絆創膏固定			
	19	足関節 アンダーラップ			
	20	足関節 バスケットウィーブ			
	21	足関節 フィギアエイト ヒールロック			
	22	膝関節 Xサポート			
	23	総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		テーピングⅡ		学年	1
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
様々な症例に対して、キネシオテープを用いた治療法を提案できるようになる。					
講 義 内 容	1	キネシオテーピングの歴史と基本原理			
	2	キネシオテーピングの効果とメカニズム			
	3	キネシオテーピングの効果とメカニズム			
	4	キネシオテーピングの基本的なテーピング技術			
	5	キネシオテーピングの基本的なテーピング技術			
	6	上肢におけるキネシオテーピングの応用			
	7	上肢におけるキネシオテーピングの応用			
	8	下肢におけるキネシオテーピングの応用			
	9	下肢におけるキネシオテーピングの応用			
	10	体幹におけるキネシオテーピングの応用			
	11	体幹におけるキネシオテーピングの応用			
	12	スポーツ障害におけるキネシオテーピングの応用			
	13	キネシオテーピングの応用演習			
	14	リハビリテーションにおけるキネシオテーピングの応用			
	15	今までの総復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		柔整トレーナー学Ⅰ		学年	1
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
トレーニング理論を学び、治療や予防の中にトレーニングを導入する必要性を習得する。					
講 義 内 容	1	体力学総論			
	2	呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動			
	3	骨格筋・神経系・内分泌系と運動			
	4	バイオメカニクス 基礎理論			
	5	スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス			
	6	スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス			
	7	生活習慣病とその予防について			
	8	救急処置法（心肺蘇生）			
	9	スポーツ選手の整形外科的障害と予防			
	10	スポーツ選手の整形外科的障害と予防			
	11	スポーツ選手の整形外科的障害と予防			
	12	運動学習			
	13	コーチング理論			
	14	コーチング理論			
	15	試験の振り返り			
評価方法					
評価基準	新 G P A （ 評 価 ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		柔整トレーナー学Ⅱ		学年	2
		単位数	1	コマ数	15
授業概要、到達目標					
コンディショニングの基本を学び、外傷治療における治療プログラムの設定・実行ができる。					
講 義 内 容	1	筋力トレーニングのプログラム作成			
	2	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	3	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	4	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	5	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成			
	6	特別な対象のためのトレーニングとプログラム			
	7	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム			
	8	筋力トレーニングの実際			
	9	パワー向上トレーニングの実際			
	10	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの実際			
	11	スピード向上トレーニングの実際			
	12	ウォームアップとクールダウン・柔軟性向上トレーニングの実際			
	13	トレーニング効果の測定と評価の実際			
	14	運動指導のための情報収集と活用			
	15	復習			
評価方法					
評 価 基 準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞

科目名		柔整トレーナー学Ⅲ		学年	2
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
スポーツ時の怪我の評価や対処法の知識、技術を習得し、現場で対応できるようになる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション、足関節の評価			
	2	体幹評価(前屈、しゃがみ動作)			
	3	足関節の評価(触診、整形外科的テスト)			
	4	足関節のリハビリテーション			
	5	体幹機能、トレーニング			
	6	運動連鎖(下肢～骨盤)、体幹トレーニング、股関節外旋トレーニング			
	7	足関節のリハビリテーション、テーピング			
	8	CORE評価とそれに対するトレーニング			
	9	皮膚運動学、テーピング			
	10	膝関節の評価(触診など)			
	11	膝関節の評価(触診、整形外科的テスト、ROM、MMT)			
	12	膝関節のリハビリテーション			
	13	骨盤帯、股関節の評価			
	14	骨盤帯、股関節の評価(MMT、ROM)			
	15	骨盤帯、股関節のリハビリテーション			
	16	胸郭の評価			
	17	胸郭のリハビリテーション			
	18	呼吸の評価 COREエクササイズ			
	19	肩関節の評価(触診、MMTなど)			
	20	肩関節の評価、リハビリテーション			
	21	肩関節の評価、リハビリテーション			
	22	体幹トレーニング			
	23	今までの総復習			

評価方法					
評価基準	新 評 価 （ G P A ）	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

単位認定

<2024年度 柔道整復師学科 シラバス>

科目名		臨床実習 I		学年	2
		単位数	1	コマ数	23
授業概要、到達目標					
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応ができるようになる。					
講 義 内 容	1	オリエンテーション			
	2	外部臨床実習			
	3	外部臨床実習			
	4	外部臨床実習			
	5	外部臨床実習			
	6	外部臨床実習			
	7	外部臨床実習			
	8	外部臨床実習			
	9	外部臨床実習			
	10	外部臨床実習			
	11	外部臨床実習			
	12	外部臨床実習			
	13	外部臨床実習			
	14	外部臨床実習			
	15	外部臨床実習			
	16	外部臨床実習			
	17	外部臨床実習			
	18	外部臨床実習			
	19	外部臨床実習			
	20	外部臨床実習			
	21	外部臨床実習			
	22	外部臨床実習			
	23	外部臨床実習			
評価方法					
評 価 基 準	新 （ G P A ） 評 価	A(90点以上):教科目標を高い水準で達成している。			
		B(80～89点):教科目標達成において優れている。			
		C(70～79点):教科目標において一定の水準に達している。			
		D(60～69点):教科目標において最低限の水準に達している。			
		F(59点以下または不合格):教科目標を達成することができなかった。			
備考					

＜2024年度 柔道整復師学科 シラバス＞				
科目名	臨床実習Ⅱ		学年	3
		単位数	3	コマ数
96				
授業概要、到達目標				
臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応ができるようになる。				
講 義 内 容	1	オリエンテーション		
	2	治療院実習		
	3	治療院実習		
	4	治療院実習		
	5	治療院実習		
	6	治療院実習		
	7	治療院実習		
	8	治療院実習		
	9	治療院実習		
	10	治療院実習		
	11	治療院実習		
	12	治療院実習		
	13	治療院実習		
	14	治療院実習		
	15	治療院実習		
	16	治療院実習		
	17	治療院実習		
	18	治療院実習		
	19	治療院実習		
	20	治療院実習		
	21	治療院実習		
	22	治療院実習		
	23	治療院実習		
	24	治療院実習		
	25	治療院実習		
	26	治療院実習		
	27	治療院実習		
	28	治療院実習		
	29	治療院実習		
	30	治療院実習		
	31	治療院実習		
	32	治療院実習		
	33	治療院実習		
	34	治療院実習		
	35	治療院実習		
	36	治療院実習		
	37	治療院実習		
	38	治療院実習		
	39	治療院実習		
	40	治療院実習		
	41	治療院実習		
	42	治療院実習		
	43	治療院実習		
	44	治療院実習		
	45	治療院実習		
	46	治療院実習		
	47	治療院実習		
	48	治療院実習		
	49	治療院実習		
	50	治療院実習		
	51	治療院実習		
	52	治療院実習		
	53	治療院実習		
	54	治療院実習		
	55	治療院実習		
	56	治療院実習		
	57	治療院実習		
	58	治療院実習		
	59	治療院実習		
	60	治療院実習		
	61	治療院実習		
	62	治療院実習		
	63	治療院実習		
	64	治療院実習		
	65	治療院実習		
	66	治療院実習		
	67	治療院実習		
	68	治療院実習		
	69	治療院実習		
	70	治療院実習		
	71	治療院実習		
	72	治療院実習		
	73	治療院実習		
	74	治療院実習		
	75	治療院実習		
	76	治療院実習		
	77	治療院実習		
	78	治療院実習		
	79	治療院実習		
	80	治療院実習		
	81	治療院実習		
	82	治療院実習		
	83	治療院実習		
	84	治療院実習		
	85	治療院実習		
	86	治療院実習		
	87	治療院実習		
	88	治療院実習		
	89	治療院実習		
	90	治療院実習		
	91	治療院実習		
	92	治療院実習		
	93	治療院実習		
	94	治療院実習		
	95	治療院実習		
	96	治療院実習		
評価方法				
評価基準	(G P A 評価)	A(90点以上)：教科目標を高い水準で達成している。 B(80～89点)：教科目標達成において優れている。 C(70～79点)：教科目標において一定の水準に達している。 D(60～69点)：教科目標において最低限の水準に達している。 F(59点以下または不合格)：教科目標を達成することができなかった。		
備考	単位認定			